

陳文瑤 助理教授

2008.9.5

學位論文

- 1、1997年1月 [日本]廣島大學大學院學校教育研究科言語教育専攻修士課程
修士論文 『大鏡』の研究—シリアスとユーモアの世界—
- 2、2000年1月 [日本]廣島大學大學院文學研究科國語學國文學専攻博士課程前期
修士論文 『増鏡』の研究—人物造型方法の視点から—
- 3、2007年12月 [日本]廣島大學文學博士 博士論文
『今鏡』研究—「〈伝承〉を重んじる心」を中心に—

期刊論文

- 1、2000年12月 「鏡物における「才」」, 『古代中世国文学』16号, 10-17
- 2、2001年09月 「『水鏡』の外国記事についての一考察—文化交流による「仮相」の平和世界」, 『古代中世国文学』17号, 104-109
- 3、2002年12月 「『今鏡』が『大鏡』から受け継いだもの—〈末〉に関する表現に着目して—」, 『古代中世国文学』18号, 10-19
- 4、2003年06月 「『今鏡』「作り物語の行方」の意味—「打聞」巻における位置づけから」, 『古代中世国文学』19号, 16-23
- 5、2004年01月 「『今鏡』独自の精神—〈伝承〉を重んじる心—」, 『古代中世国文学』20号, 30-42
- 6、2005年05月 「『今鏡』の叙述態度—伝聞表現に着目して—」, 『古代中世国文学』21号, 10-21
- 7、2006年07月 「『今鏡』に登場する和歌を詠む人々—和歌作者への評価の目—」, 『古代中世国文学』22号, 20-30
- 8、2006年09月 「『今鏡』の章段名の性格—和歌との関わりから—」, 『国文学攷』191号, 15-28
- 9、2007年03月 「『今鏡』における願文の一節「龍海の西にはうみの宮、御産平安頼みあり」の解釈をめぐって—神宮皇后の「うみの宮」に着目して—」, 『古代中世国文学』23号, 35-39
- 10、2008年03月 「昔の白河の大臣のごとくに、内舎人など御隨身賜はらせ給ひき」の意味すること—『公卿補任』の記述を手掛かりにして—」, 『古代中世国文学』24号, 12-18

研討會論文

- 1、2000年11月25日 「鏡物における「才」」, 広島大学国語国文学秋季研究集会
- 2、2007年4月10日 「『今鏡』に登場する和歌を詠む人々—〈歌詠み〉と評される

其他學術活動

- 1、2001年6月，猪川優子・朝倉和・陳文瑤・赤迫照子・相原宏美，連歌師宗祇法師五百年遠忌・金子金治郎博士三回忌記念 国際研究集会『金子文庫目録』写真版解説，「下草」「百番連歌合」「心前何路百韻自注」「雑袋」「吉深独吟千句注 下」「連歌新式追加並新式今案等」「宗祇筆作新式目」「名所方角抄」「指南抄」「賦物篇」「連歌新式増抄」「連集良材」項担当・執筆，1,11,17,18,23,28,32,36-38,40,42
- 2、2004年よりWEB上公開，藤川功和・小川陽子・陳文瑤・相原宏美・大園岳雄，広島大学所蔵奈良絵本・室町時代物語（デジタル郷土図書館）翻刻・解題「すゝめの夕かほ」（雀の夕顔）「つるのしうけん」（鶴の祝言）、「花世姫」項を担当
- 3、2004年1月 陳文瑤・岡陽子，『古今集秘書』（稻賀敬二旧蔵）（上），翻刻平安文学資料稿，第3期別巻4（共校注）
- 4、2005年5月 陳文瑤・小川陽子・相原宏美，『古今集秘書』（稻賀敬二旧蔵）（下），翻刻平安文学資料稿，第3期別巻4（共校注）